

令和7年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立羽松高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の取組
1 今求められる必要な力を育成すると共に、生徒一人ひとりの適性と能力に応じたきめ細やかな学習支援を行うため、教育的ニーズの把握と手立てを検討し、授業のユニバーサルデザインとAI学習教材等により指導の充実を図る。	① 授業のユニバーサルデザインによる学習支援を行うと共に、AI学習教材を活用することで、学習意欲と個別最適な学びに繋げる。	学習支援や学習教材の工夫等により、学習意欲と個別最適な学びに繋がった生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	85% <b>B</b> 【R7.11 A 90%】	ユニバーサルデザインによる学習支援については、毎回、本時の目標と授業の流れを板書してから、授業を開始していることや、教師の学習教材の研鑽・工夫が、生徒の学習意欲と個別最適な学びにつながっている。AI学習教材（スタディサプリ）に関しては、11月と1月の学び直し週間に学習意欲と個別最適な学びにつながったかを問うアンケートを実施した。11月では、とてもあてはまる35%、ややあてはまる55%であったが、1月ではとてもあてはまる40%、ややあてはまる45%となった。今後とも学び直しを継続していく。
	② 授業力の改善と、教員の資質向上を図るため、発達障がい理解を深める研修を含め、校内外への各種研修に積極的に参加する。	校内外の研修に、6回以上参加した教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	100% <b>A</b> 【R7.7 D 50%】	本校の教員は、探究心があり大変研究熱心である。石川県教育委員会が主催する研修会には、1人でいくつもの研修会に意欲的に参加し、自己研鑽に努めた。授業力向上のための研修はもとより、多様な生徒に対し個に応じた支援を行うため、外部の講師を招き、発達障がいやスクールカウンセラーによる校内研修も行っている。今後も積極的に研修に参加し、教員としての学びを深める。
	③ 生徒が1人1台端末を使うような授業を日常的に実施し、生徒が端末を活用する授業を行うことで、生徒が意欲的に授業に参加するよう授業改善に努める。	生徒が1人1台端末を授業で使うことで、意欲的に授業に参加していると思う生徒の割合が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	82% <b>B</b> 【R7.7 B 84%】	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、1人1台端末を活用しながら、考え方の共有や振り返りなどを行い、授業を進めている。1人1台端末を使う機会も増えて、かつ、授業の進め方を習得することにより、「意欲的に授業に参加している」と自覚する生徒が増えたと考える。今後も更なる工夫により、生徒の学習意欲を高めていく。
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		学び直しを9月から行っているが、なぜ4月からスタートしないのか。アンケートも11月と1月になっているがもっと早くできないのか。		
学校評議員・学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		4月から学んだ学習について9月に到達度テストを実施し、その結果を受けて学び直しの学習を行っている。ある程度の学び直し学習を行ったうえで学習意欲につながっているかアンケートをとっている。今後は実施時期についても検討し、生徒が継続して意欲的に学習に取り組めるよう工夫する。		
2 基本的な生活習慣を確立し規範意識を高めるとともに、道徳心や倫理観の向上を図る。	① いじめや非行、スマホ等を利用した不適切な行為を未然に防止するために、各種講習会・講演会を実施する。	いじめや不適切行為に関する訴え・相談件数が A 0件である。 B 1件である。 C 2件である。 D 3件以上である。	1件 <b>B</b> 【R7.7 A 0件】	ネットトラブル防止教室や、薬物乱用防止・防犯教室を早期に実施し、日常に潜む危険性について警察より指導していただいたことが効果的であった。詳細な使用状況が把握しづらいネットに係るトラブルは、時宜を捉えて継続的に指導している。アンケートによるいじめの訴えが1件あり、対応中である。教員による丁寧な生徒観察を継続し、生徒の変化を見逃さずいじめの芽を摘み、また未然防止につなげていく。
	② 生活指導をとおして、挨拶や言葉遣いをはじめとして、適切な態度が取れるように、情操教育を充実する。	校則や社会のルール、TPOを意識して生活していると思う生徒の割合が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	95% <b>A</b> 【R7.7 B 93%】	生徒による自己評価は高いものの、日常の挨拶や言葉遣いには課題が多く、全職員挙げて粘り強い指導が必要である。特に社会のルールやマナーという点においては意識を高めさせたい。校外学習や外部の方と対面する行事等の機会を捉え、適切な態度がとれるよう具体的かつ丁寧な指導を継続していく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の取組
	③ 保健教育・保健指導を工夫して、自身の健康を自律的に管理できるよう意識を高めながら、健全な生活習慣を確立・維持する。	毎日丁寧に歯みがきをする生徒の割合が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	95% <b>A</b> 【R7.5 C 88%】	今年度の「歯は毎日丁寧に磨いている」の項目に「ほぼあてはまる」と答えた生徒の割合の推移は、5月88%、9月（夏休み中の歯みがきの状況）87%、12月95%、1月（冬休みの歯みがきの状況）89%と、1年を通じて80%後半～90%の生徒が歯みがき習慣を維持している結果となった。長期休業中に毎日磨かなくなる生徒も何名かおり、今後は学校がある比較的生活リズムが安定している時期はもちろん、生活リズムが乱れがちな長期休業中にも良い生活習慣を維持できる効果的な対策を考えていきたい。
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		いじめの訴えが1件あるが、校内で相談できる環境は整っているのか。		
学校評議員・学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		いじめ等アンケートを年4回実施している。また、生徒の小さな変化を見逃さず、常日頃から教職員による声掛けを行うなど、相談しやすい環境を作っている。今後も教職員全体で情報共有し、積極的認知と未然防止に努める。		
3 学校行事等に積極的に参加することを通して自己肯定感や協調性、コミュニケーション力を高めるとともに、非常時に適切な行動ができる資質・能力を身に付けさせる。	① 授業に協働学習やグループ活動等を積極的に取り入れ、「通級」による有効な指導法等も活かしながら、生徒が自分の考えを伝えられるように工夫する。	授業中に、自分の考えや意見を述べるができると思う生徒の割合が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	80% <b>B</b> 【R7.7 B 81%】	1人1台端末の活用による意見交換やまとめ作業を行うだけでなく、少数の習熟度授業などにおいては、生徒全員が役割分担をして意見を述べる回数を増やしている。また、話すことが苦手な生徒でも「通級」を経験することにより、協働学習やペアワークにも参加できるようになってきた。今後も活動内容の工夫・改善に努めていく。協働学習やグループ活動を通して、自他の意見や考えを共有し深めていく。
	② 校内外の各種行事の内容や生徒に対する働きかけを工夫し、積極的に参加させることを通して、自己肯定感や協調性を高めることに繋げる。	校内外の各種行事に、積極的に取り組んだと思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	83% <b>B</b> 【R7.7 C 79%】	学校行事については、一定数の欠席者が恒常的に存在する状況が見られた。特に、定時制課程の生徒にとって、校外行事における全校生徒でのバス移動や、通常の授業時間を超える長時間の拘束は、心理的・身体的負担が大きく、参加を躊躇する要因となっている。また、学校行事が授業とは異なり単位修得に直接結びつかないことも、欠席者が一定数生じる背景の一つであると考えられる。一方で、参加した生徒については、事後アンケート等から自己肯定感や協調性の向上が確認されており、学校行事が生徒の成長に寄与している側面も明らかである。今後は、行事の意義や目的を事前に丁寧に共有するとともに、生徒の特性や負担感に配慮した参加形態や運営方法について検討を進める必要がある。
	③ 度重なる大規模災害を踏まえ、安全で安心な学校づくりに欠かせない避難訓練等において、生徒が的確な判断の下、防災意識を高め、身を守るために必要な行動を取れるように指導する。	緊急避難時に守るべき事項と、自分が取るべき行動について、理解していると思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	97% <b>A</b> 【R7.7 A 95%】	度重なる大規模震災を経験した教職員が多数在籍し、常に安心・安全な学校運営に努めている。また、教職員は防災・避難訓練の際は一人の生徒も逃げ遅れることなく、怪我をせず安全に避難できるように意識して取り組んでいる。教職員の訓練に対する真剣な態度や、生徒への言葉かけが生徒の心に届いたものとする。生徒は安心して学校生活を送り安全な学校環境のもとで、落ち着いて教育活動に取り組んでいる。今後とも現在のような状況を保てるよう、さらに一人一人の教職員が防災意識を高めることができるよう防災教育活動に取り組む。
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		災害にもいろんな災害があるので、大雪・浸水・地震など様々な災害を想定しておく必要がある。		
学校評議員・学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		火災・地震のみならず、大雪の際などにおける通学中の避難場所なども自分で確認し、自ら判断・行動できるように指導する。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の取組
4 地域や外部機関（スクール・キャリア・アドバイザー等）と連携を深めながら進路指導を実施し、キャリア教育の充実に努める。	① 各学年にキャリア教育と進路指導を自分事として捉えられるように実施し、生徒が自ら進路目標を決定できるように支援を行う。	具体的な進路目標を持ち、進路実現のために努力すべきだと考えている生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	86% <b>B</b> 【R7.7 B 86%】	9月末に実施した進路希望調査では、1年生の進路未定としていた数が減少した一方で、2・3年生の一部生徒で進路を未定に変更する生徒が見られた。調査後は、すべての学年において担任による個人面談を実施し、本人の思いを聞き出し受け止めている。進路目標を定めるために、社会に対してどのような形で貢献していくか、という視点で見聞を広め経験を積んでいくことが求められる。その一役を担う学校行事に対して目的意識を持って参加させるとともに、放課後のアルバイトを推奨していく。
	② 生徒の進路志望を実現するため、関係諸機関や地元企業との連携を深め、生徒の希望・適性・能力に合致した進路指導に努める。	卒業生の進路実現の割合が A 100%である。 B 90%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	86% <b>C</b> 【R7.2 D 75%】	進学志望者については、全員が志望先への合格を得ている。志望分野や出願校はできるだけ早期に決めさせ、それぞれの受験方式に応じた準備をさせていく必要がある。特に大学志望者については、面談を通して目的意識を明確にさせるとともに、低年次から受験科目を確認させ、対策の意識付けをしていく必要がある。一方、就職志望者については、おおむね卒業後の方向性を定めることができた。「何がしたいのか」だけでなく、「何ができるのか」という視点で、いかにして在学中にできることを増やしていくかが今後の課題である。
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		アルバイト推奨とあるが、アルバイトをするメリットを伝えているのか		
学校評議員・学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		アルバイト経験から、働くということについて学び、今後の進路について具体的に考える機会を持ってもらいたいと考えている。生徒には、アルバイト推奨の意図を伝え、さらに進路実現に向けて、将来のキャリア形成に役立てていけるよう指導する。		
5 教職員のウェルビーイングに繋げるため、働き方改革を推進しワークライフバランスを図るとともに、度重なる大規模災害を踏まえ、災害対応力を強化する。	① 教職員の多忙化改善に向けて、適切な校務分担と、効率的な業務の遂行に務める。	職場の多忙化改善に取り組んだ、と答えた教職員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	100% <b>A</b> 【R7.7 A 100%】	これまでICTを活用し、教員間での情報共有や情報収集、会議資料などのデジタル化を行ってきた。加えて今年度は時間管理として、休日出勤をする場合は管理職へ事前に申告しなおかつ土日のどちらか1日のみ出勤とし、業務従事時間も制限を設けるなど休日勤務の削減を徹底した。時間外勤務は、年度当初と比較すると35%削減されており、昨年度と比較しても大幅な削減が見られた。教員数が少ない分、1人にかかる仕事量は多いが、限られた時間の中でいかに効率よく業務を遂行するかを一人ひとりが意識し、組織として多忙化改善に取り組んだ成果であると考えている。今後もワークライフバランスを充実させ、ウェルビーイングに繋がるよう継続して多忙化改善に取り組む。
	② 専門家等による指導・助言を受けて、責任感と使命感をさらに醸成する。	防災担当を位置づけ、防災教育活動を実施した回数 A 5回である。 B 4回である。 C 3回である。 D 3回未満である。	4回 <b>B</b> 【R7.7 C 3回】	1月末時点で防災教育活動の実施回数は4回である。複数回の防災教育活動を受けることで、教職員は防災に対する意識をブラッシュアップしている。さらに、本校は多様な生徒が多く在籍し、その身体と生命の安全を守るべく、教職員は高い責任感と使命感を持って災害対応力を高めている。本校生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、地域の状況と本校の実態に即した、専門家による防災教育活動に取り組む。
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		先生方の健康が一番大事なので、健康に留意して生徒と向き合う時間を作ってほしい。		
学校評議員・学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		教員は健康に留意しながら引き続き効率的な業務の遂行に努め、継続して多忙化改善に取り組む。		